

立教大学コミュニティ福祉研究所学術研究推進資金  
大学院生研究 2015年度研究成果報告書

研究科名	立教大学大学院 コミュニティ福祉学	研究科	福祉学	専攻
指導教員	所属・職名	氏名		
	コミュニティ福祉学部・教授	長倉 真寿美		
研究課題名	SOS ネットワークの構築と継続的運営方法に関する研究 ～認知症高齢者の発見保護機能に目指して～			
研究代表者	在籍研究科・専攻・学年	氏名		
	コミュニティ福祉学研究科・ 福祉学専攻・修士課程2年	黄 嘉倫		
研究期間	2015年度			
研究経費	100千円			

研究の概要 (200～300字で記入、図・グラフ等は使用しないこと。)

本研究は、主に高齢者福祉分野に関するものであり、高齢者が住み慣れた地域で安心安全に生活できる仕組み、特に認知症高齢者が徘徊などで行方不明になった時に素早く探すことができる、SOS ネットワークの構築および継続的運営の方法を明らかにすることを目的とする。

超高齢社会である日本は、2013年10月時点で3190万人の高齢者を抱えており、総人口の25.1%に達している。高齢者の4人に1人が認知症患者であると予測されているという現状から考えると、認知症高齢者問題の対策は重要な課題である。したがって、認知症高齢者の地域での生活を見守るため、SOS ネットワークを設立し継続的運営する方法についてはまだ十分に明らかにされていないことから、本研究は極めて有意義である。

キーワード (研究内容をよく表しているものを3項目以内で記入。)

[ SOS ネットワーク ] [ 認知症 ] [ 見守り ]

**研究成果の概要** (図・グラフ等は使用しないこと。)

本研究は四つの研究方法：①文献研究②電話調査③インタビュー調査④公文書調査を行うことによって研究結果に導かれた。

文献研究は主に認知症高齢者の現状、徘徊による行方不明者の実態、高齢者の見守り活動の内容、SOS ネットワークの現状などについて先行研究等の文献を収集し、整理を行った。結果、認知症高齢者の徘徊問題に対応する地域見守りの活動に関する調査・研究は少ないことが明らかである。

また、SOS ネットワークに関する先行研究が少ないため、ネットワークのサイトを運営・管理している NPO シルバー総合研究所が SOS ネットワークの現状を把握している可能性が高いと考え、NPO シルバー総合研究所へ電話調査を行った。電話調査の結果、SOS ネットワークは NPO シルバー総合研究所によって管理されている全国的な組織ではない。研究所は 2010 年まで厚生労働省から補助金を受け、研究事業として SOS ネットワークについて調査を行ってきたが、それ以降の調査研究は一切なされていない。研究所のサイトで SOS ネットワークを整備している市区町村名は検索できるが、登録されているのはすべて、2009 年の調査において、「ネットで公表してもよい」と了承した地域である。この調査によれば、日本全国において約 542 カ所の SOS ネットワークが存在すると推計されたが、現在では、市町村合併による変化が生じていると考える必要がある。

さらに、東京都日野市の SOS ネットワークのプレ調査を経て、北海道釧路市の SOS ネットワークの事務局である釧路保健所と関係機関の釧路市福祉部、釧路地区障害老人を支える会(たんぽぽの会)、そして神奈川県茅ヶ崎市の SOS ネットワークの運営機関である茅ヶ崎市高齢福祉介護、さらに、県内の SOS ネットワークを総合的にサポートしている神奈川県高齢社会課にインタビュー調査を行った。

**研究成果の概要 つづき**

最後は上記インタビュー調査先の「第 6 期釧路市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（いきいき健やか安心プラン 2015~2017）」「第 2 期釧路市地域福祉計画（平成 25 年度～平成 29 年度）」「第 6 期茅ヶ崎市高齢者福祉計画・介護保険事業計画（平成 27 年度～平成 29 年度）」「第 3 期茅ヶ崎市地域福祉計画・第 5 次茅ヶ崎市地域福祉活動計画（みんながつながる ちがさきの地域福祉プラン）（平成 27 年度～平成 32 年度）」「かながわ高齢者保健福祉計画（平成 27 年から平成 29 年度）」「神奈川県地域福祉支援計画（平成 27 年度～平成 31 年度）」を収集し、SOS ネットワークに関連する記述について抽出した。そして、抽出した内容を精査した。

釧路地域 SOS ネットワーク、茅ヶ崎市・寒川町徘徊老人のための SOS ネットワークの設立・展開、活動内容などを分析した結果、SOS ネットワークの設立を可能にする要素として、「呼び掛ける者の存在」「協力機関・団体」「地域の社会資源を生かしたネットワーク」の三つが抽出できた。そして、継続的運営の要素として、「地域の社会資源を活用する」「SOS ネットワークの活動の意義を常に明確にする」「活動内容のマニュアル化」「連絡協議会の定期的開催」「広域ネットワークの構築」の五つが抽出できた。

**研究発表** (研究によって得られた研究経過・成果を発表した①～④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。)

- ①雑誌論文 (著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ)
- ②図書 (著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数)
- ③シンポジウム・公開講演会等の開催 (会名、開催日、開催場所)
- ④その他 (学会発表、研究報告書の印刷等)

① 雑誌論文

著者名：黄 嘉倫

論文標題：「SOS ネットワークと高齢者見守り活動の違い-認知症の行方不明者を検索する地域サポートのあり方-」

雑誌名：「コミュニティ福祉学研究科紀要」

巻号：第14号

発行年：2016年3月

ページ：pp.27-36